

「国民との科学・技術対話」って…

研究者は何をすれば良いか？

2013年4月30日（火） 18:00-20:00

近年大学では、日々の業務に忙殺されている研究者がたくさんいます。そのような状況の中、2010年6月、内閣府より『国民との科学・技術対話』の推進について（基本的取組方針）」が公表されました。この基本的取組方針では、研究者が“研究活動の内容や成果を社会・国民に対して分かりやすく説明する、未来への希望を抱かせる心の通った双方向コミュニケーション活動”に積極的に取り組むようにとあります。さて、研究者はいったいどうすれば良いのでしょうか？京都大学での「国民との科学技術・対話」の取り組みについてご紹介します。（ゲストより）

ゲスト 白井 哲哉 氏

京都大学 学術研究支援室 リサーチアドミニストレーター（URA）

京都大学大学院生命科学研究科 特任助教、京都大学人文科学研究所 特定助教を経て、2012年より現職。

会場 京都大学 吉田泉殿

- * 京町家風の建物です。
- * 普通の家のように見えるので、通り過ぎないようにご注意ください。
- * 入り口に「京都大学吉田泉殿」という看板がかかっています。

定員 25名程度

- * 当日参加も可能です！
- * お申し込みをいただいた方には、リマインダーをお送ります。

持ち物 （おながやすく時間なので）夕ご飯を持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志
水町 衣里（京都大学）、加納 圭（滋賀大学）



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/17woRwg>